

2019/11/21

柏の景気情報(2019年10月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報(2019年10月分)

○ 調査期間 : 2019年10月29日 ~ 2019年11月13日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	70	44.9%
建設	44	20	45.5%
製造	33	14	42.4%
卸・小売	44	22	50.0%
サービス	35	14	40.0%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こ3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりという意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【2019年10月の業況についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34. 2(前月水準▲18. 3)となり、マイナス幅が15. 9ポイント拡大した。

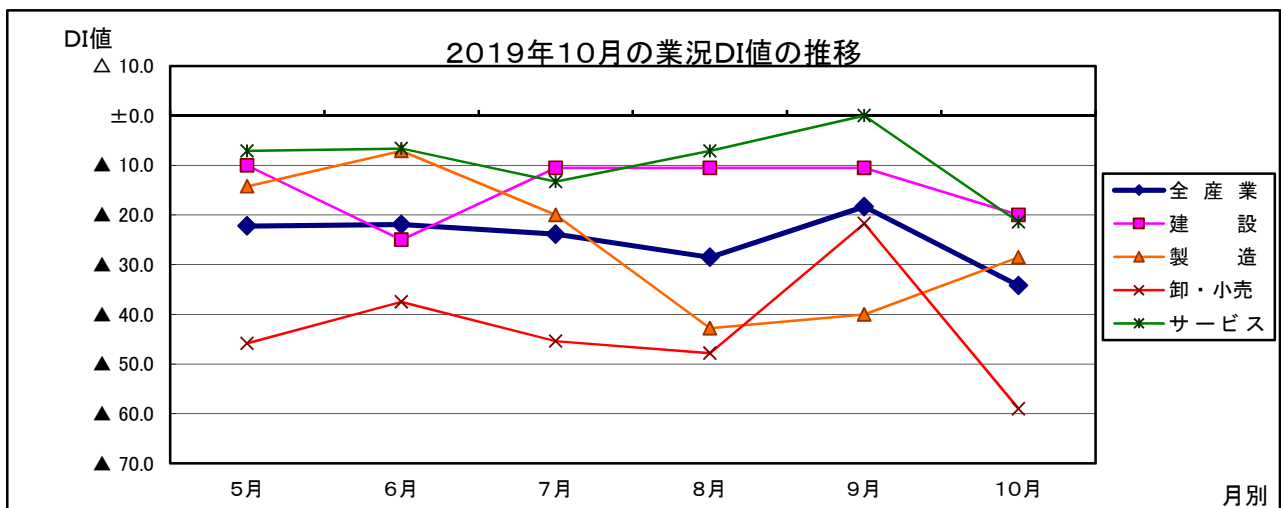
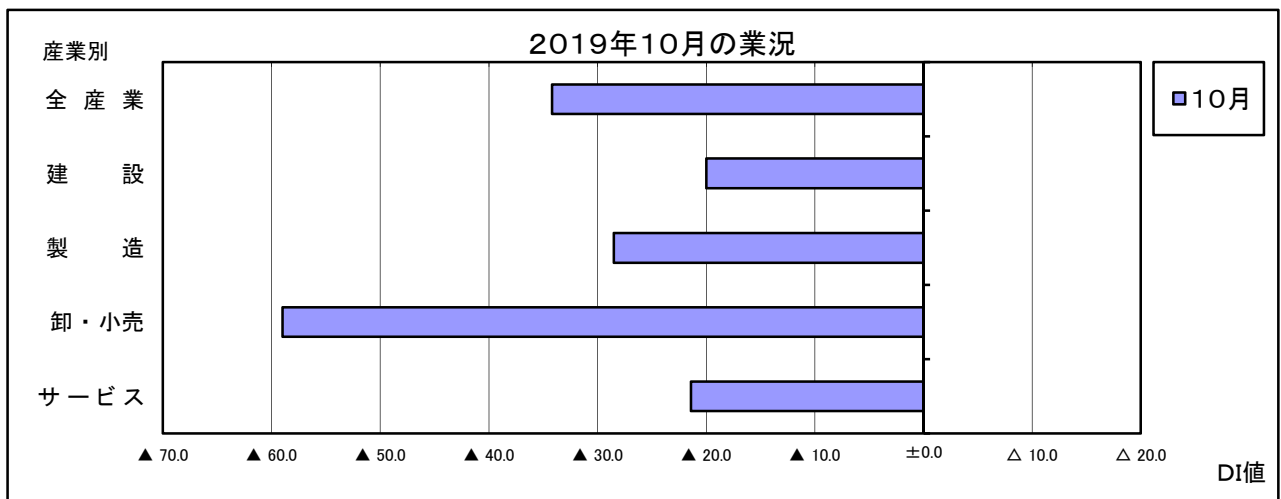
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲28. 5(同▲40. 0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲59. 0(同▲21. 7)、サービス業▲21. 4(同±0. 0)、建設業▲20. 0(同▲10. 5)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17. 1(前月水準▲12. 6)となり、マイナス幅が4. 5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△21. 4(同△14. 2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲36. 3(同▲39. 1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲30. 0(同▲5. 2)、製造業▲7. 1(同▲6. 6)である。

2019年10月業況DI値(前年同月比)の推移

	2019年						先行き見通し
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月~1月(10月~12月)
全産業	▲22.2	▲21.9	▲23.9	▲28.5	▲18.3	▲34.2	▲17.1(▲12.6)
建設	▲10.0	▲25.0	▲10.5	▲10.5	▲10.5	▲20.0	▲30.0(▲5.2)
製造	▲14.2	▲7.1	▲20.0	▲42.8	▲40.0	▲28.5	▲7.1(▲6.6)
卸・小売	▲45.8	▲37.5	▲45.4	▲47.8	▲21.7	▲59.0	▲36.3(▲39.1)
サービス	▲7.1	▲6.6	▲13.3	▲7.1	±0.0	▲21.4	△21.4(△14.2)



【2019年10月の売上についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲47.1(前月水準▲23.9)となり、マイナス幅が23.2ポイント拡大した。

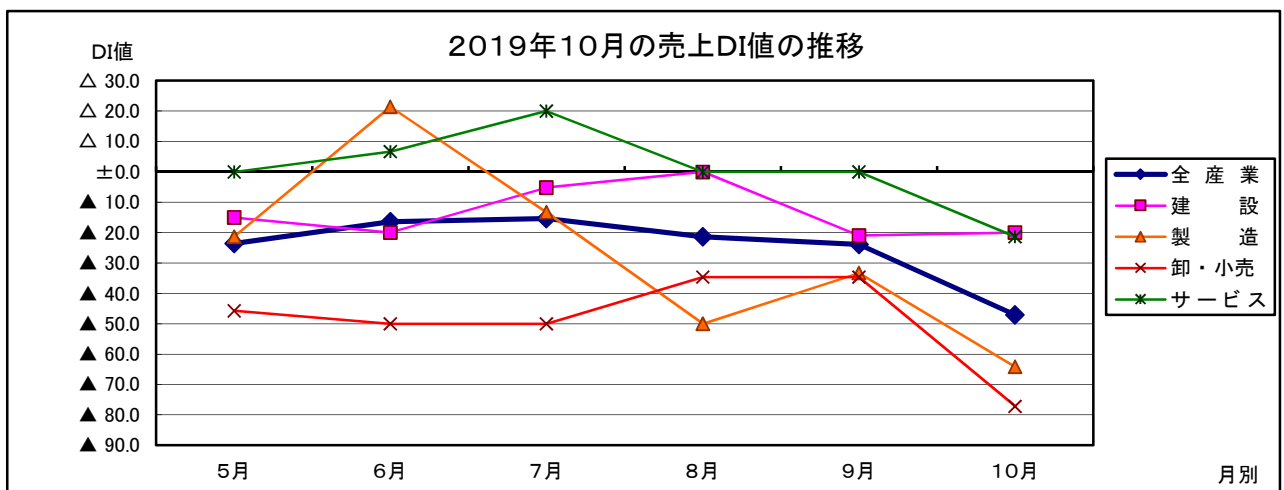
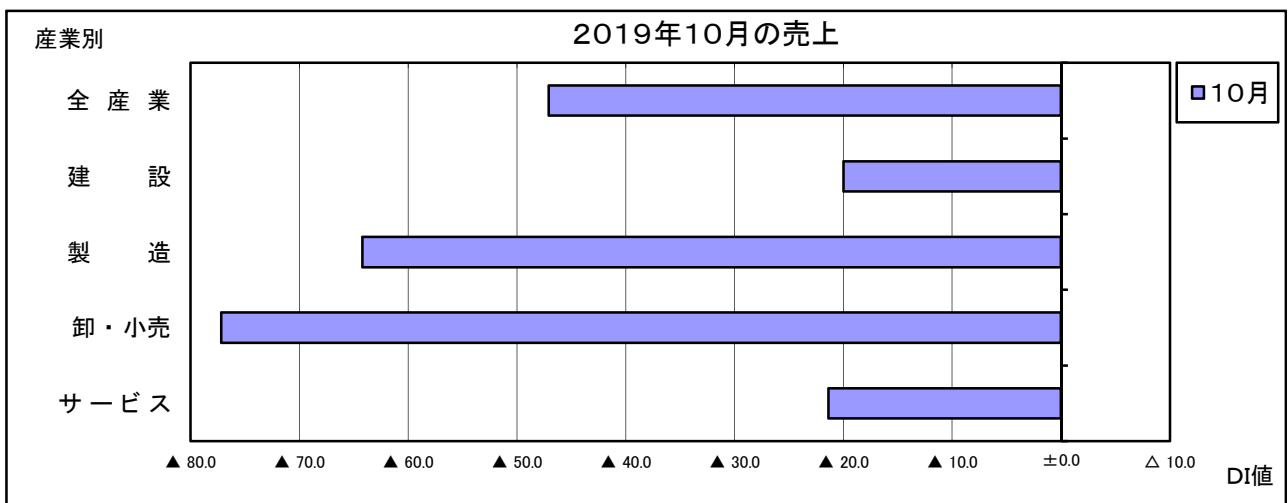
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲20.0(同▲21.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲77.2(同▲34.7)、製造業▲64.2(同▲33.3)、サービス業▲21.4(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.7(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が5.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△28.5(同△7.1)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲40.9(同▲47.8)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲25.0(同△5.2)、製造業▲7.1(同13.3)である。

2019年10月の売上DI値(前年同月比)の推移

	2019年						先行き見通し
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月~1月(10月~12月)
全産業	▲23.6	▲16.4	▲15.4	▲21.4	▲23.9	▲47.1	▲15.7(▲9.8)
建設	▲15.0	▲20.0	▲5.2	±0.0	▲21.0	▲20.0	▲25.0(△5.2)
製造	▲21.4	△21.4	▲13.3	▲50.0	▲33.3	▲64.2	▲7.1(△13.3)
卸・小売	▲45.8	▲50.0	▲50.0	▲34.7	▲34.7	▲77.2	▲40.9(▲47.8)
サービス	±0.0	△6.6	△20.0	±0.0	±0.0	▲21.4	△28.5(△7.1)



【2019年10月の採算についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲45.7(前月水準▲32.3)となり、マイナス幅が13.4ポイント拡大した。

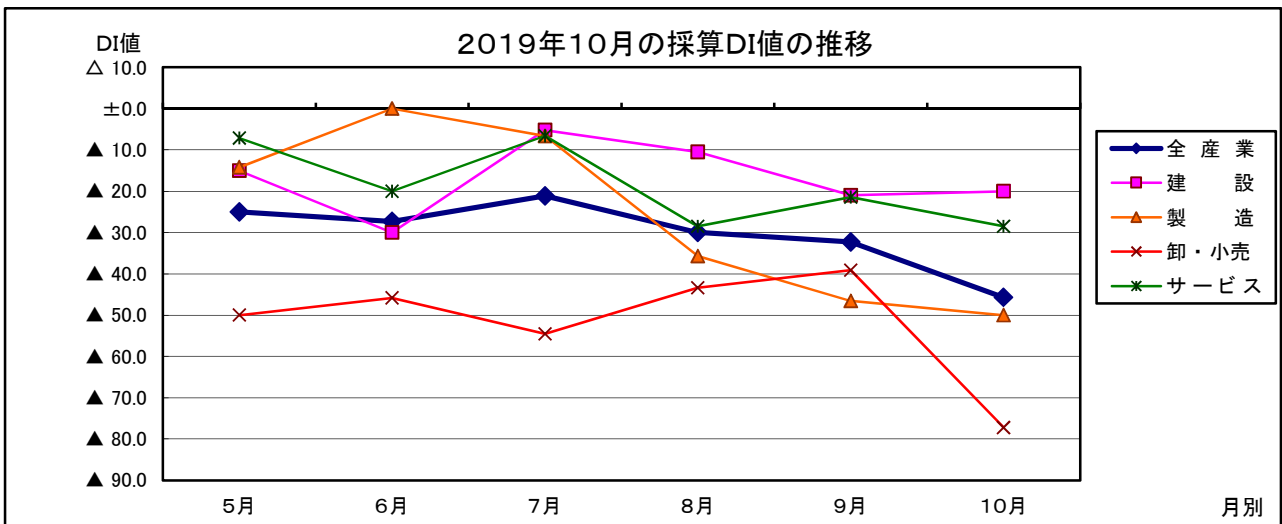
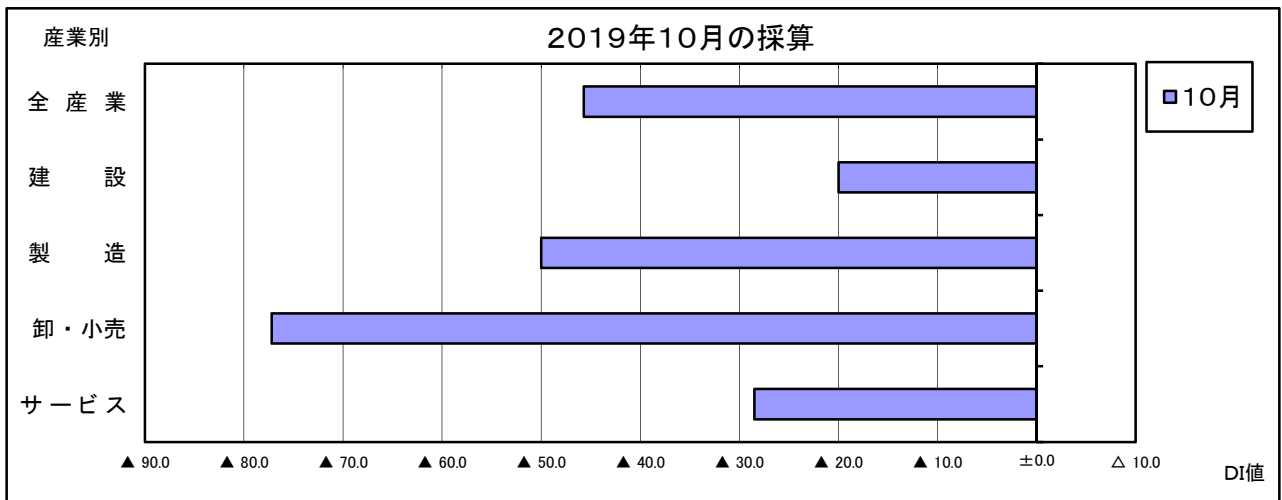
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲20.0(同▲21.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲77.2(同▲39.1)、サービス業▲28.5(同▲21.4)、製造業▲50.0(同▲46.6)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.0(前月水準▲14.0)であり、マイナス幅が6.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△35.7(同△7.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲28.5(同▲6.6)、建設業▲25.0(同▲5.2)、卸小売業▲45.4(同▲39.1)である。

2019年10月の採算DI値(前年同月比)の推移

	2019年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	▲25.0	▲27.3	▲21.1	▲30.0	▲32.3	▲45.7	▲20.0(▲14.0)
建設	▲15.0	▲30.0	▲5.2	▲10.5	▲21.0	▲20.0	▲25.0(▲5.2)
製造	▲14.2	±0.0	▲6.6	▲35.7	▲46.6	▲50.0	▲28.5(▲6.6)
卸・小売	▲50.0	▲45.8	▲54.5	▲43.4	▲39.1	▲77.2	▲45.4(▲39.1)
サービス	▲7.1	▲20.0	▲6.6	▲28.5	▲21.4	▲28.5	△35.7(△7.1)



【2019年10月の仕入単価についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲47. 1(前月水準▲36. 6)となり、マイナス幅が10. 5ポイント拡大した。

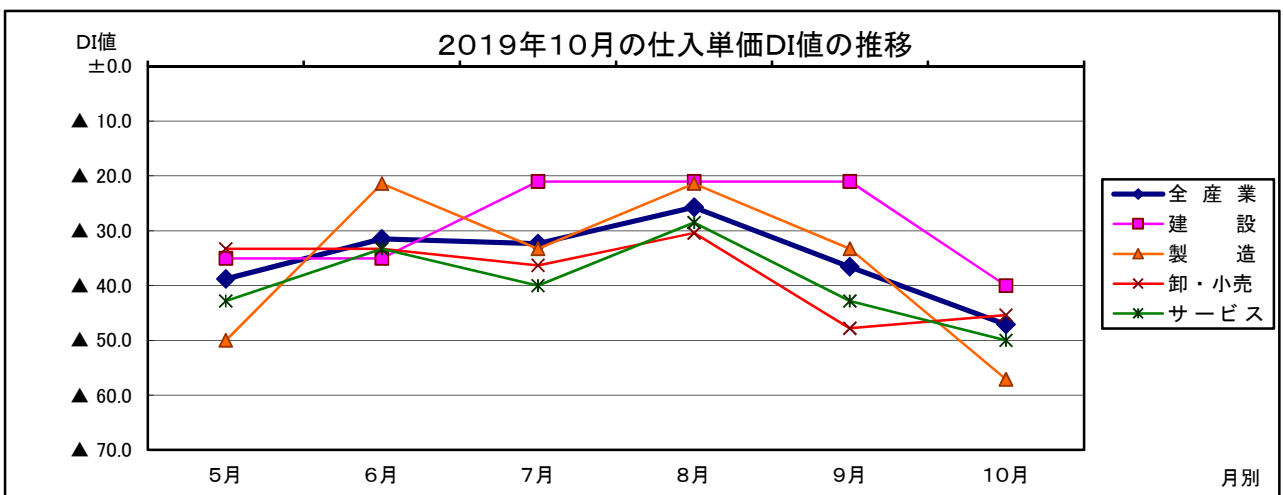
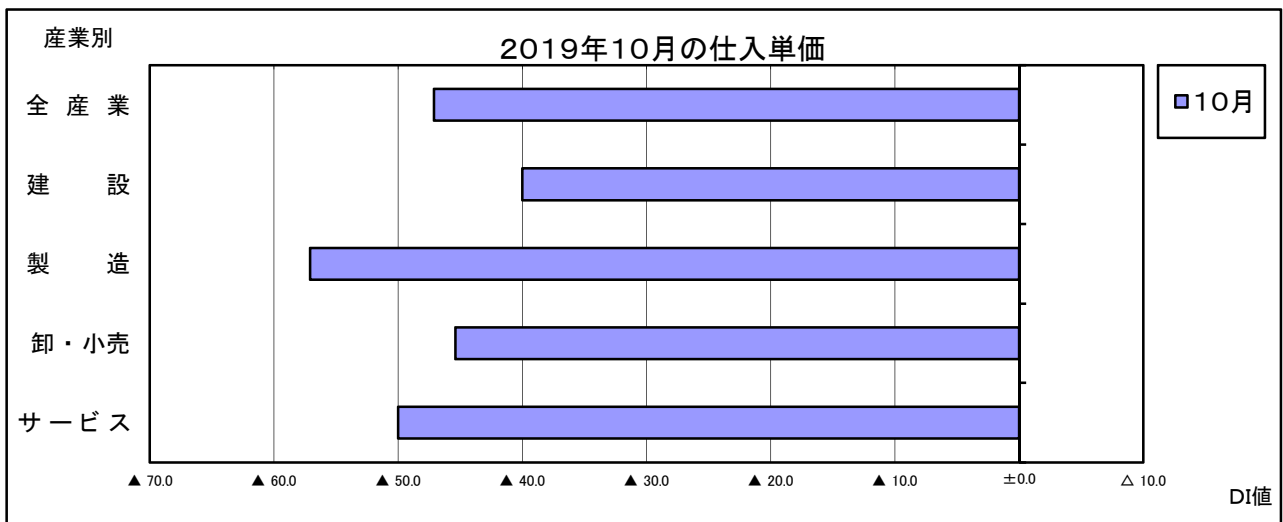
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲45. 4(同▲47. 8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲57. 1(同▲33. 3)、建設業▲40. 0(同▲21. 0)、サービス業▲50. 0(同▲42. 8)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲30. 0(前月水準▲29. 5)となり、マイナス幅が0. 5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲36. 3(同▲39. 1)である。変らない見通しの業種は、サービス業▲21. 4(同▲21. 4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲35. 0(同▲31. 5)、製造業▲21. 4(同▲20. 0)である。

2019年10月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	2019年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲38.8	▲31.5	▲32.3	▲25.7	▲36.6	▲47.1	▲30.0(▲29.5)
建設	▲35.0	▲35.0	▲21.0	▲21.0	▲21.0	▲40.0	▲35.0(▲31.5)
製造	▲50.0	▲21.4	▲33.3	▲21.4	▲33.3	▲57.1	▲21.4(▲20.0)
卸・小売	▲33.3	▲33.3	▲36.3	▲30.4	▲47.8	▲45.4	▲36.3(▲39.1)
サービス	▲42.8	▲33.3	▲40.0	▲28.5	▲42.8	▲50.0	▲21.4(▲21.4)



【2019年10月の従業員についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△24. 2(前月水準△30. 9)となり、プラス幅が6. 7ポイント縮小した。

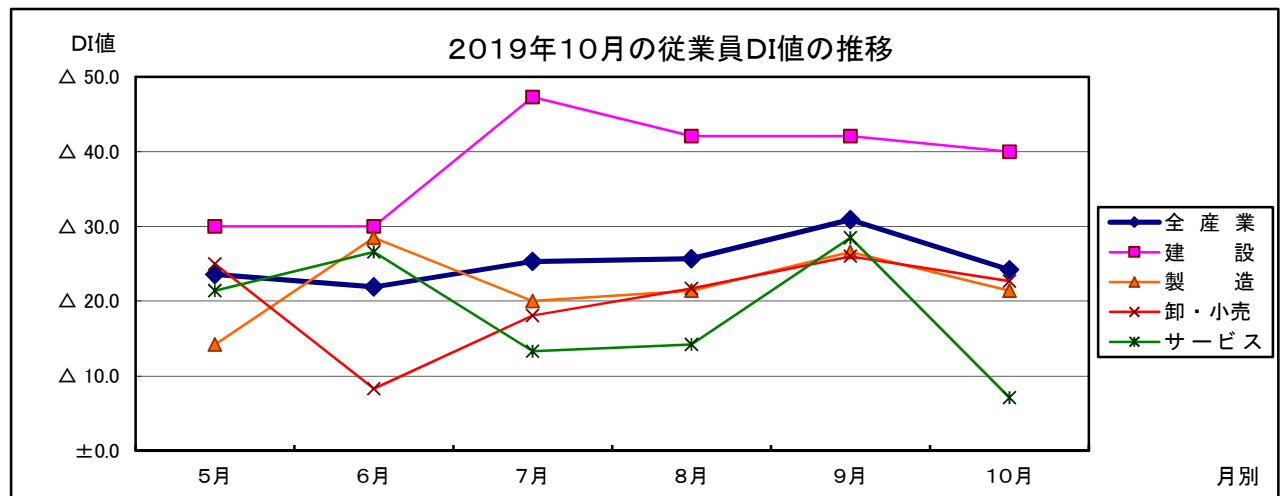
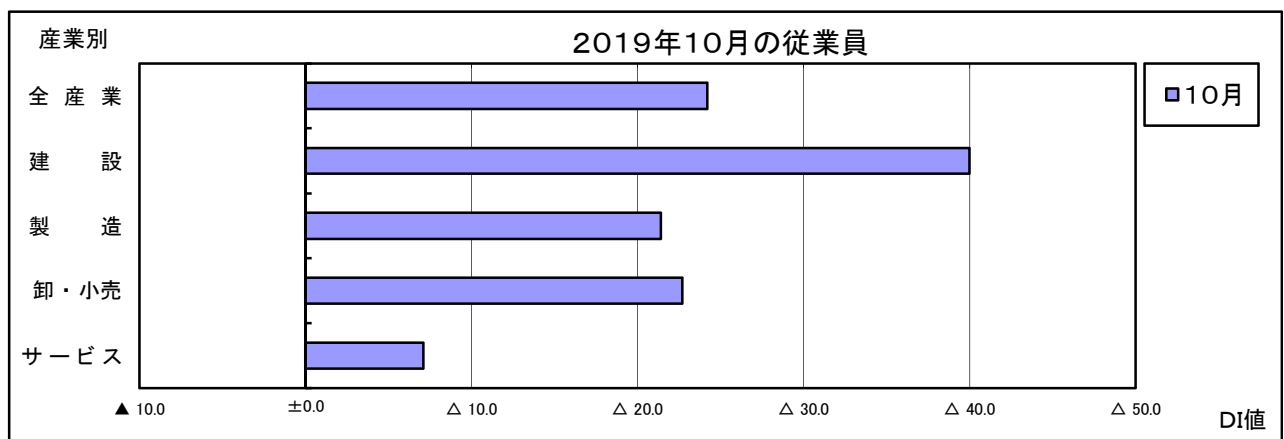
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業△7. 1(同△28. 5)、製造業△21. 4(同△26. 6)、卸小売業△22. 7(同△26. 0)、建設業△40. 0(同△42. 1)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△27. 1(前月水準△30. 9)となり、プラス幅が3. 8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業△22. 7(同△21. 7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△14. 2(同△28. 5)、製造業△28. 5(同△33. 3)、建設業△40. 0(同△42. 1)である。

2019年9月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	2019年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	△23.6	△21.9	△25.3	△25.7	△30.9	△24.2	△27.1(△30.9)
建設	△30.0	△30.0	△47.3	△42.1	△42.1	△40.0	△40.0(△42.1)
製造	△14.2	△28.5	△20.0	△21.4	△26.6	△21.4	△28.5(△33.3)
卸・小売	△25.0	△8.3	△18.1	△21.7	△26.0	△22.7	△22.7(△21.7)
サービス	△21.4	△26.6	△13.3	△14.2	△28.5	△7.1	△14.2(△28.5)



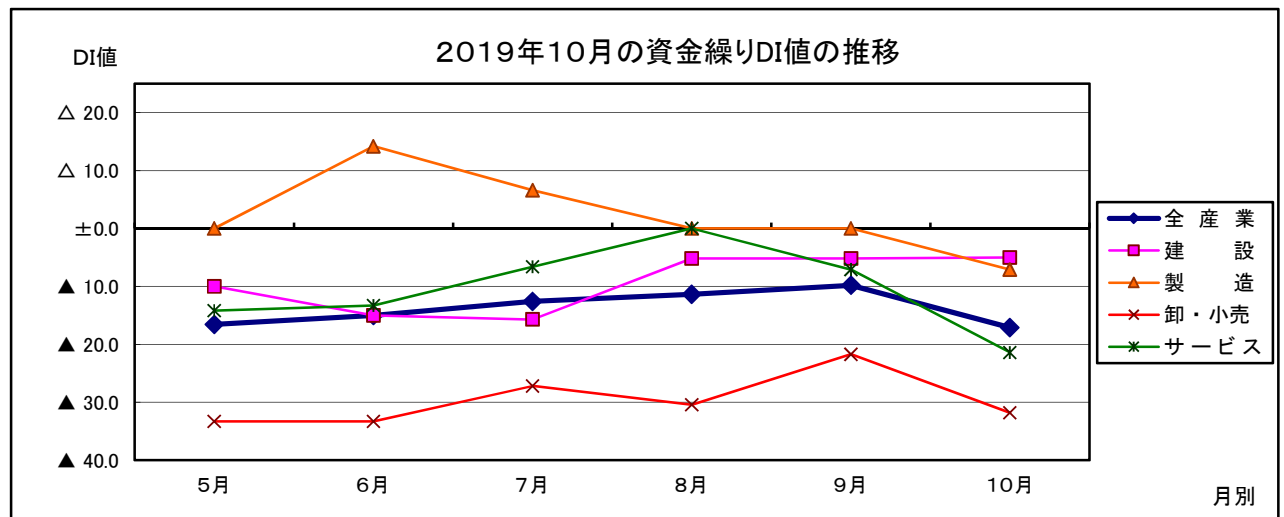
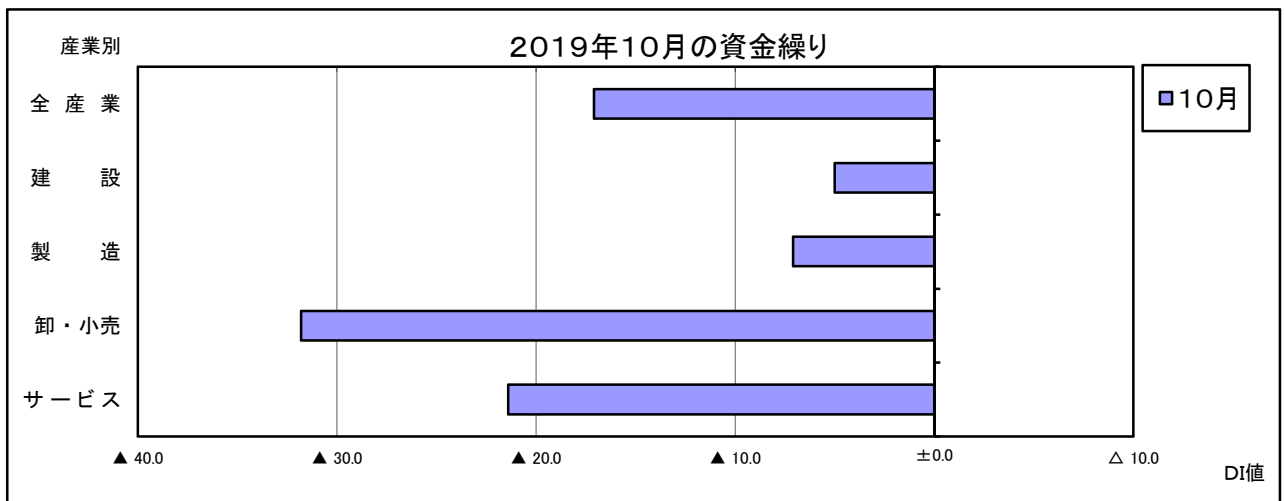
【2019年10月の資金繰りについての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.1(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が7.3ポイント拡大した。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲5.0(同▲5.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲21.4(同▲7.1)、卸小売業▲31.8(同▲21.7)、製造業▲7.1(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.5(前月水準▲2.8)となり、マイナス幅が5.7ポイント拡大する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△14.2(同△7.1)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲10.0(同△5.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲7.1(同±0.0)、卸小売業▲22.7(同▲17.3)である。

2019年10月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	2019年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲16.6	▲15.0	▲12.6	▲11.4	▲9.8	▲17.1	▲8.5(▲2.8)
建設	▲10.0	▲15.0	▲15.7	▲5.2	▲5.2	▲5.0	▲10.0(△5.2)
製造	±0.0	△14.2	△6.6	±0.0	±0.0	▲7.1	▲7.1(±0.0)
卸・小売	▲33.3	▲33.3	▲27.2	▲30.4	▲21.7	▲31.8	▲22.7(▲17.3)
サービス	▲14.2	▲13.3	▲6.6	±0.0	▲7.1	▲21.4	△14.2(△7.1)



【2019年10月の調査結果のポイント】

《全産業況DIは改善。先行きも回復を見込むが不透明感残る》

10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34.2(前月水準▲18.3)となり、マイナス幅が15.9ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲28.5(同▲40.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲59.0(同▲21.7)、サービス業▲21.4(同±0.0)、建設業▲20.0(同▲10.5)である。

【建設業】からは、「消費税や台風等の影響はなかったが、危機管理、安全対策を考えておく事が必要と感じた」(電気工事業)、「高齢化に伴い必要最低限の堅実なリフォーム・修繕工事が増加」(一般土木建築工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「働き方改革の対応策として社内改善・改革を進めるも、生産性の向上や効率的な業務の遂行に限界がある。社員に今まで以上のマルチタスクが要求され、どこまで対応可能なのかが生き残りの鍵となる予感」(自動車付属品製造業)、「売上は全体的にあまり良くない。一部は好調で、極端な状況。台風による影響が不透明。若手の教育、採用、業務の効率改善を進めて地力をつけたい」(化学工業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「天気による影響大きく、売上減少店舗多い。また、車で5分の隣接地にテラスモールが開店し、当分影響しそう」(婦人・子供服小売業)、「ポイント還元対象ではないが、キャッシュレス決済が増加」(大型小売店)、「教科書関連業務の為、2~4月まで売上のピーク」(書籍・文房具小売業)、「週末の天候不良が多く、客足が鈍かった」(各種商品小売業)、「ショッピングセンターではライバルが開店。百貨店では売り場をリニューアルして売上増を期待」(洋菓子店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「西口北地区再開発に向けて、業態を含め一考の時期。今月はいろいろな要因が重なり最悪だった。11月はセールを検討」(酒場・ビヤホール)、「米国大統領選挙を2020年に控え、トランプ株高政策が日本を含む先進国の株高を刺激。また、世界が日本の商業施設、ホテル、物流施設を大量買い。国内の金相場は40年ぶりの高値を付けて維持。企業経営はオリンピックに浮かれず、一旦借入金の減債にあて、我に返る時期」(投資顧問)、「相変わらず高齢者の資産処分の相談が入る。また、売却査定依頼、買い取り相談も多い。業況は不変で、安定して問い合わせがある」(不動産管理業)、「年度末に係る駆け込み需要がある。オリンピック後の展開が不安。大手企業の内部留保の使い方が慎重すぎる。人手不足は悪化が留まらないが、必要なのは即戦力のみ」(ソフトウェア業)、「外食は消費増税と週末の台風の連続直撃で大打撃を受けた」(日本料理)、「外国人従業員は急に1~2週間の長期休暇をとる。シフトに穴が開き、生産性が落ち売上減少」(食堂・レストラン)などのコメントが寄せられた。

◎台風の影響

「台風の影響でイベント関係の仕事が減少」(印刷業)、「台風19号の影響あり、会社継続の為に環境を考え直さなければならない」(印刷業)、「台風による休業を実施したが、前倒し需要が激しく月間では影響なし」(大型小売店)、「前半は台風の影響があり想定以上の消費の冷え込みを実感。しかし、物産展ほか、営業施策の強化により集客は前年より増加傾向。売上は回復基調にある」(百貨店)、「台風等の悪天候により売上減！週末のイベントも中止に。天気に泣かされた」(洋菓子店)、「増税と台風による臨時休業で10月は大変な月となった。長野、福島、千葉等生産地の被害が品不足を生むかと懸念する」(花・植木小売業)、「台風の影響等で入館者数5%減、売上7%減となった」(公衆浴場業)、「台風の影響で屋根・雨漏れの修理依頼が殺到し、対応に苦慮」(不動産管理業)、「台風15、19号の甚大な被害を見て、物件の保守への取り組みを見直す必要性を感じる。また、物件購入に当たり、ハザードマップを意識した立地選別が進むと考えている」(不動産賃貸・管理業)との声が寄せられた。

◎消費増税の影響

「消費増税前の受注電話や来客はぱったり。2%の増税がこんなに消費マインドを下げるとはびっくり」(畳工事請負・畳製造販売業)、「増税の影響で衣料と日用品が不調」(大型小売店)、「増税前の駆け込み需要が無かった分、買い控えも感じられない」(各種商品小売業)「増税後、一気に落ち込み、消費の控え傾向が激しい。台風被害も影響か。後半になっても良くなる傾向なし」(時計・眼鏡・光学機械小売業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲22.2	▲10.0	▲14.2	▲45.8	▲7.1
6月	▲21.9	▲25.0	▲7.1	▲37.5	▲6.6
7月	▲23.9	▲10.5	▲20.0	▲45.4	▲13.3
8月	▲28.5	▲10.5	▲42.8	▲47.8	▲7.1
9月	▲18.3	▲10.5	▲40.0	▲21.7	±0.0
10月	▲34.2	▲20.0	▲28.5	▲59.0	▲21.4
見通し	▲17.1	▲30.0	▲7.1	▲36.3	△21.4

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 47.1	▲ 15.7	▲ 45.7	▲ 20.0	▲ 47.1	▲ 30.0	△ 24.2	△ 27.1
建設	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 40.0	▲ 35.0	△ 40.0	△ 40.0
製造	▲ 64.2	▲ 7.1	▲ 50.0	▲ 28.5	▲ 57.1	▲ 21.4	△ 21.4	△ 28.5
卸・小売	▲ 77.2	▲ 40.9	▲ 77.2	▲ 45.4	▲ 45.4	▲ 36.3	△ 22.7	△ 22.7
サービス	▲ 21.4	△ 28.5	▲ 28.5	△ 35.7	▲ 50.0	▲ 21.4	△ 7.1	△ 14.2

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 34.2	▲ 17.1	▲ 17.1	▲ 8.5
建設	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 5.0	▲ 10.0
製造	▲ 28.5	▲ 7.1	▲ 7.1	▲ 7.1
卸・小売	▲ 59.0	▲ 36.3	▲ 31.8	▲ 22.7
サービス	▲ 21.4	△ 21.4	▲ 21.4	△ 14.2

【2019年10月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設業	消費増税前の受注電話や来客はばったり。2%の増税がこんなに消費マインドを下げるとはびっくり。	消費増税	畳工事請負・畳製造販売業
	消費税や台風等の影響はなかったが、危機管理、安全対策を考えておく事が必要と感じた。	危機管理、安全対策の必要性	電気工事業
	高齢化に伴い必要最低限の堅実なリフォーム・修繕工事が増えている。	高齢化の影響	一般土木建築工事業
製造業	台風の影響でイベント関係の仕事が減っている。	台風の影響	印刷業
	働き方改革の対応策として社内改善・改革を進めるも、生産性の向上や効率的な業務の遂行に限界がある。社員に今まで以上のマルチタスクが要求され、どこまで対応可能なかが生き残りの鍵となる予感。	働き方改革	自動車付属品製造業
	台風19号の影響あり、会社継続の為に環境を考え直さなければならない。	台風の影響	印刷業
	売上は全体的にあまり良くない。一部は好調で、極端な状況。台風による影響が不透明。若手の教育、採用、業務の効率改善を進めて地力をつけたい。	売上不調 業務効率改善	化学工業
卸小売業	天気による影響大きく、売上減少店舗多い。また、車で5分の隣接地にテラスモールが開店し、当分影響しそう。	売上減少 テラスモール開店の影響	婦人・子供服小売業
	増税後、一気に落ち込み、消費の控え傾向が激しい。台風被害も影響か。後半になっても良くなる傾向なし。	消費増税の影響	時計・眼鏡・光学機械小売業
	増税の影響で衣料と日用品が不調。ポイント還元対象ではないが、キャッシュレス決済が増えている。台風による休業を実施したが、前倒し需要が激しかった為、月間では影響なし。	消費増税の影響 キャッシュレス決済増加 台風の影響	大型小売店
	教科書関連業務の為、2～4月まで売上のピーク。	売上ピークへ向けた準備	書籍・文房具小売業
	前半は台風の影響があり、全体的に想定以上の消費の冷え込みを実感したものの、物産展ほか営業施策の強化により、集客は前年より増加傾向。売上は回復基調にある。	台風の影響	百貨店
	増税前の駆け込み需要が無かった分、買い控えも感じられない。週末の天候不良が多く、客足が鈍かった。	消費増税の影響 天候の影響	各種商品小売業
	台風等の悪天候により売上減！週末のイベントも天候不良により中止に。天気に泣かされた。	台風の影響	洋菓子店
	ショッピングセンターではライバルが開店。百貨店では売り場をリニューアルして売上増を期待。	売上増加の期待	洋菓子店
	増税と台風による臨時休業で10月は大変な月となった。長野、福島、千葉等生産地の被害が品不足を生むかと懸念する。	消費増税の影響 台風の影響	花・植木小売業
	台風の影響等で入館者数5%減、売上7%減となった。	台風の影響	公衆浴場業
サービス業	西口北地区再開発に向けて、業態を含め一考の時期。今月はいろいろな要因が重なり最悪だった。11月はセールを検討。	業績不調 11月セール実施予定	酒場・ビヤホール
	米国大統領選挙を2020年に控え、トランプ株高政策が日本を含む先進国の株高を刺激。また、世界が日本の商業施設、ホテル、物流施設を大量買い。国内の金相場は40年ぶりの高値を付けて維持。企業経営はオリンピックに浮かれず、一旦借入金の減債にあて、我に返る時期。	株価相場	投資顧問
	台風の影響で屋根・雨漏れの修理依頼が殺到し、対応に苦慮。相変わらず高齢者の資産処分相談が入る。また、売却査定依頼、買い取り相談も多い。業況は不変で、安定して問い合わせがある。	台風の影響 業況安定	不動産管理業
	年度末に係る駆け込み需要がある。オリンピック後の展開が不安。大手企業の内部留保の使い方が慎重すぎる。人手不足は悪化が留まらないが、必要なのは即戦力のみ。	年度末需要増加 人材不足	ソフトウェア業
	外食は消費増税と週末の台風の連続直撃で大打撃を受けた。	消費増税の影響 台風の影響	日本料理
	台風15、19号の甚大な被害を見て、物件の保守への取り組みを見直す必要性を感じる。また、物件購入に当たり、ハザードマップを意識した立地選別が進むと考えている。	台風の影響	不動産賃貸・管理業
外国人従業員は急に1～2週間の長期休暇をとる。シフトに穴が開き、生産性が落ち売上減少。	外国人従業員 売上減少	食堂・レストラン	

◎台風の影響

「台風の影響でイベント関係の仕事が減少」(印刷業)、「台風19号の影響あり、会社継続の為に環境を考え直さなければならない」(印刷業)、「台風による休業を実施したが、前倒し需要が激しく月間では影響なし」(大型小売店)、「前半は台風の影響があり想定以上の消費の冷え込みを実感。しかし、物産展ほか、営業施策の強化により集客は前年より増加傾向。売上は回復基調にある」(百貨店)、「台風等の悪天候により売上減！週末のイベントも中止に。天気に泣かされた」(洋菓子店)、「増税と台風による臨時休業で10月は大変な月となった。長野、福島、千葉等生産地の被害が品不足を生むかと懸念する」(花・植木小売業)、「台風の影響等で入館者数5%減、売上7%減となった」(公衆浴場業)、「台風の影響で屋根・雨漏れの修理依頼が殺到し、対応に苦慮」(不動産管理業)、「台風15、19号の甚大な被害を見て、物件の保守への取り組みを見直す必要性を感じる。また、物件購入に当たり、ハザードマップを意識した立地選別が進むと考えている」(不動産賃貸・管理業)との声が寄せられた。

◎消費増税の影響

「消費増税前の受注電話や来客はぱったり。2%の増税がこんなに消費マインドを下げるとはびっくり」(畳工事請負・畳製造販売業)、「増税の影響で衣料と日用品が不調」(大型小売店)、「増税前の駆け込み需要が無かった分、買い控えも感じられない」(各種商品小売業)「増税後、一気に落ち込み、消費の控え傾向が激しい。台風被害も影響か。後半になっても良くなる傾向なし」(時計・眼鏡・光学機械小売業)との声が寄せられた。











2019年10月CCI-LOBOとの比較











- 【業況D I】 全産業合計では、「柏の景気」が▲34. 2に対し、「CCI-LOBO」が▲24. 1で柏の方がマイナス幅が10. 1ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業であり、建設業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上D I】 全産業合計では、「柏の景気」が▲47. 1に対し、「CCI-LOBO」が▲17. 4で柏の方がマイナス幅が29. 7ポイント大きい。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業であり、建設業、製造業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【採算D I】 全産業合計では、「柏の景気」が▲45. 7に対し、「CCI-LOBO」が▲21. 8で柏の方がマイナス幅が23. 9ポイント大きい。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業であり、製造業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価D I】 全産業合計では、「柏の景気」が▲47. 1に対し、「CCI-LOBO」が▲41. 3で柏の方がマイナス幅が5. 8ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員D I】 全産業合計では、「柏の景気」が△24. 2に対し、「CCI-LOBO」が△24. 0で柏の方がプラス幅が0. 2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りD I】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17. 1に対し、「CCI-LOBO」が▲12. 1で柏の方がマイナス幅が5. 0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。変わらない業種は、建設業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。











2019年10月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較





景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 34.2	 ▲ 20.0	 ▲ 28.5	 ▲ 59.0	 ▲ 21.4
CCI-LOBO	 ▲ 24.1	 ▲ 7.9	 ▲ 25.3	 ▲ 38.6	 ▲ 20.4

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 47.1	 ▲ 20.0	 ▲ 64.2	 ▲ 77.2	 ▲ 21.4
CCI-LOBO	 ▲ 17.4	 ▲ 2.4	 ▲ 16.7	 ▲ 35.8	 ▲ 12.5

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 45.7	 ▲ 20.0	 ▲ 50.0	 ▲ 77.2	 ▲ 28.5
CCI-LOBO	 ▲ 21.8	 ▲ 11.8	 ▲ 18.5	 ▲ 37.5	 ▲ 18.9

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 47.1	 ▲ 40.0	 ▲ 57.1	 ▲ 45.4	 ▲ 50.0
CCI-LOBO	 ▲ 41.3	 ▲ 48.5	 ▲ 40.6	 ▲ 40.0	 ▲ 42.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 24.2	 40.0	 21.4	 22.7	 7.1
CCI-LOBO	 24.0	 40.6	 14.7	 19.4	 27.7

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 17.1	 ▲ 5.0	 ▲ 7.1	 ▲ 31.8	 ▲ 21.4
CCI-LOBO	 ▲ 12.1	 ▲ 5.0	 ▲ 9.8	 ▲ 19.7	 ▲ 12.7

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(10月速報)

調査期間：2019年10月15日～21日

調査対象：全国の338商工会議所が2,623企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、駆け込み需要の反動減等から悪化。先行きは、不透明感が根強く、慎重な見方続く

10月の全産業合計の業況DIは、▲24.1と、前月から▲4.1ポイントの悪化。根強い消費者の節約志向が続く中、消費税引上げに伴う駆け込み需要の反動減により、小売業の売上が落ち込んだ。また、一部の地域ではラグビーワールドカップに伴いインバウンドを含む観光需要が好調に推移した一方、台風19号の影響による旅行客のキャンセルや客足減少、交通網の寸断、生産活動・物流面への影響を指摘する声も聞かれた。深刻な人手不足や最低賃金引上げによる人件費の上昇に加え、米中貿易摩擦や世界経済の先行き不透明感が広く業況の押し下げ要因となっており、中小企業の景況感には鈍さが見られる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲26.5(今月比▲2.4ポイント)と悪化を見込む。個人消費の拡大

やインバウンドを含む秋の観光需要拡大への期待感がうかがえる。一方、消費税引上げの影響や最低賃金を含め人件費の上昇や受注機会損失など人手不足の深刻化、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、貿易摩擦や世界経済の動向、日韓情勢の行方など不透明感が増す中、中小企業の業況感は慎重な見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、製造業、小売業、サービス業で悪化、卸売業は改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「設備投資関連では製造業からの大型案件を受注でき、売上は堅調。ただし、技術職や下請け企業の人手不足は深刻であり、受注調整をせざるを得ない状況は変わらず、消費税引上げ後の状況と併せて注視してい

きたい」(一般工事業)、「台風15号や19号の被害に伴う修理や保険対応の見積もり依頼が多く、受注は増加している。既に200件以上の依頼を受けており、全ての対応が終わるのに年明け頃までかかる可能性もある」(建築工事業)

今後の懸念材料となっている」(建設資材等卸売業)、「飲料品の受注が好調で売上は改善したものの、資金繰りに余裕はなく、設備投資に踏み切れない。また、人件費や仕入れコスト上昇の行方次第では販売価格への転嫁も検討せざるを得ない」(飲食料品卸売業)

【製造業】「米中貿易摩擦や中国経済の減速の影響で中国向け製品の受注が減少し、売上・採算ともに悪化した。今後

【小売業】「台風19号の影響に伴う道路規制の影響により物流が滞っており、製品の入荷が遅れるなど影響があった。

も好材料に乏しく、売上高の前年割れは避けられない見通し」(金属製品製造業)、「ラグビーワールドカップや地元のプロ野球チームのクライマックスシリーズ進出による盛り上がりのおかげを受け、売上は増加した。人手不足が深刻な状況は続いているものの、これから迎える秋の行楽シーズンは書き入れ時であり、さらなる売上増加を目指している」(食料品製造業)

【卸売業】「好調な民間工事

【サービス業】「地元がラグビーワールドカップの開催地となったため、インバウンドを含め、ワールドカップ関連の観光客は増加した。一方で、台風

が増え、建材や鋼材などの資材関連の売上が伸びた。業況は改善した一方で、前年同月と比べて仕入れコストの負担感が大きい状況は変わらず、

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
5月	▲17.1	▲7.7	▲22.3	▲19.8	▲29.4	▲6.7
6月	▲18.3	▲9.5	▲20.0	▲25.5	▲28.3	▲10.9
7月	▲20.2	▲5.6	▲20.5	▲27.4	▲33.9	▲14.5
8月	▲21.0	▲9.5	▲23.1	▲25.2	▲31.1	▲15.9
9月	▲20.0	▲4.8	▲21.1	▲30.6	▲27.5	▲17.1
10月	▲24.1	▲7.9	▲25.3	▲26.9	▲38.6	▲20.4
見通し	▲26.5	▲9.4	▲28.1	▲26.4	▲39.6	▲25.2

19号の影響により予約のキャンセルも相次いだほか、人手不足に伴う人件費の増加もあり厳しい状況が続いており、全体の売上は落ち込んだ」(宿泊業)、「韓国や香港からの観光客が激減しており、売上は壊滅状態で業況は悪化している。消費税引上げによる売上減少も予想され、台湾や上海など幅広い地域からの誘客に取り組んでいきたい」(飲食業)

柏の景気情報

(10月の調査結果のポイント)

調査期間：2019年10月29日～11月13日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数71件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲22.2	▲10.0	▲14.2	▲45.8	▲7.1
6月	▲21.9	▲25.0	▲7.1	▲37.5	▲6.6
7月	▲23.9	▲10.5	▲20.0	▲45.4	▲13.3
8月	▲28.5	▲10.5	▲42.8	▲47.8	▲7.1
9月	▲18.3	▲10.5	▲40.0	▲21.7	±0.0
10月	▲34.2	▲20.0	▲28.5	▲59.0	▲21.4
見通し	▲17.1	▲30.0	▲7.1	▲36.3	△21.4

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

全産業業況D Iは様々な要因が絡み悪化。先行きはサービス業が売上増を見込むも、他業種は慎重な見方変わらず

10月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下同じは、▲34.2(前月水準▲18.3)となり、マイナス幅が15.9ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲28.5(同▲40.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲59.0(同▲21.7)、サービス

業▲21.4(同±0.0)、建設業▲20.0(同▲10.5)である。

【建設業】からは、「消費税や台風等の影響はなかったが、危機管理、安全対策を考え、おく事が必要と感じた」(電気工事業)、「高齢化に伴い必要最低限の堅実なリフォーム・修繕工事が増加」(一般土木建築工事業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「西

口北地区再開発に向けて、業

10月の景気キーワード

◎台風の影響

◎消費増税の影響

「消費増税前の受注電話や来客は多かったり。2%の増税がこんなに消費マインドを下げるとはびっくり」(畳工事請負・畳製造販売業)、「増税の影響で衣料と日用品が不調」(大型小売店)、「増税前の駆け込み需要が無かった分、買い控えも感じられない」(各種商品小売業)「増税後、一気に落ち込み、消費の控え傾向が激しい。台風被害も影響か。後半になっても良くなる傾向なし」(時計・眼鏡・光学機械小売業)との声が寄せられた。

【製造業】からは、「働き方改革の対応策として社内改善・改革を進めるも、生産性の向上や効率的な業務の遂行に限界がある。社員に今まで以上のマルチタスクが要求され、どこまで対応可能なのかが生き残りの鍵となる予感」(自動車付属品製造業)、「売上は全体的にあまり良くない。一部は好調で、極端な状況。台風による影響が不透明。若手の教育・採用、業務の効率改善を進めて地力をつけた」(化学工業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「天気による影響大きく、売上減少店舗多い。また、車で5分の隣接地にテラスモールが開店し、当分影響しそう」(婦人・子供服小売業)、「ポイント還元対象ではないが、キャッシュ

ユレス決済が増加」(大型小売店)、「教科書関連業務の為、2〜4月まで売上のピーク」(書籍・文房具小売業)、「週末の天候不良が多く、客足が鈍かった」(各種商品小売業)、「ショールが閉店。百貨店では売り場をリニューアルして売上増を期待」(洋菓子店)などのコメントが寄せられた。

「台風の影響で屋根・雨漏れの修理依頼が殺到し、対応に苦慮」(不動産管理業)、「台風15、19号の甚大な被害を見て、物件の保守への取り組みを見直す必要性を感じる。また、物件購入に当たり、ハザードマップを意識した立地選別が進む」との声も寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(OCT-10B)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲34.2に対し、「CCI・L O B O」が▲24.1で柏の方が大きい。業種別では、「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業であり、建設業、卸小売業は10ポイント以上悪い。